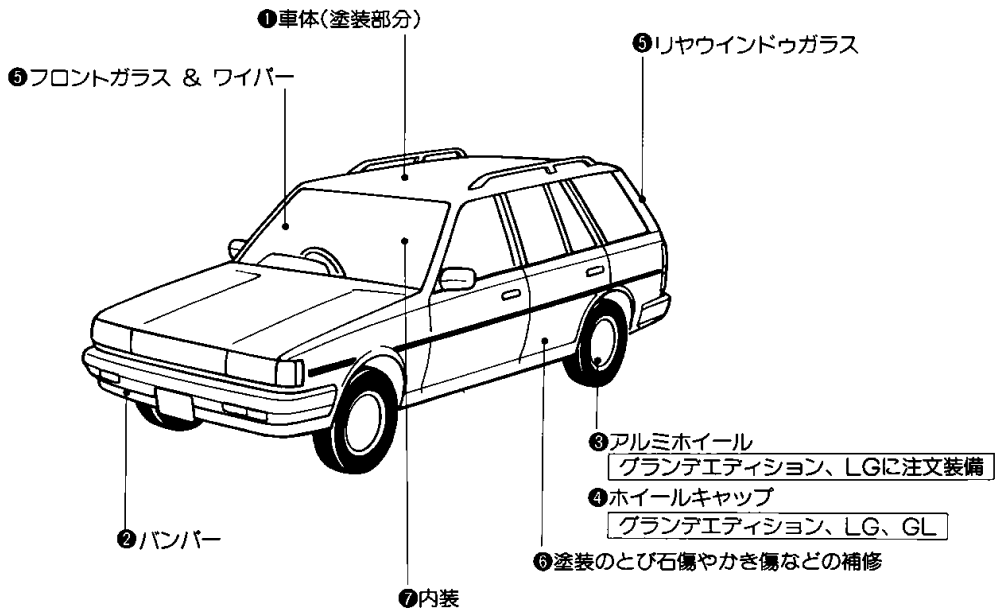


車の手入れ100
 経済運転のコツ103
 寒冷地での取り扱い104
 タイヤチェーン107

車の手入れ



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

車を美しく保つには

車をいつまでも美しく保つためには、日頃の手入れが必要で

1. 次のような場合は必ず洗車してください。
 - 海岸地帯を走行したとき。
 - 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
 - コールタール、ばい煙、油煙、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき。
 - ほこり、泥などで著しくよごれたとき。
2. 次のような場所に長時間駐車しますと、塗装の劣化や、車体、部品の腐食などを早める原因となります。十分注意してください。
 - 海岸
 - ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所。
 - 化学物質を排出する工場周辺。
 - 樹液、鳥のふん、虫の死がいなどの付着の多い場所。



ちょっと一言

1. コンパウンド(みがき粉)入りワックスは、よごれがひどく落ちにくいときにだけ限定してご使用ください。
2. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

①車体(塗装部分)の手入れ

1. 車体のほこりはやわらかい布か毛ばたきで取ってください。
2. 鳥のふん、虫の死がいなどは、トヨタ純正むしクリンを使用して除去してください。

▶洗車方法

1. 車体の下回り、足回りを洗います。
2. 次に、車体に十分水をかけながら、スポンジかセーム皮(鹿のなめし皮)でよごれを洗い落とします。
3. よごれのひどいときは、トヨタ純正カーシャンプーまたは水アカクリナーを使用します。



注意!

1. エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。
2. 洗車するときは、ワイヤーブラシやたわしなど硬い物を使用しないでください。塗装などに傷が付きます。

4. 塗装面にはん点が残らないように十分水をふき取ります。

▶ワックスについて

ワックスの中にコンパウンド(みがき粉)がはいっていないものをご使用ください。

1. 1カ月に1度、または水のはじきが悪くなったときに行ってください。
2. 洗車後、車体の温度が体温以下のときに行ってください。しみの原因になります。
3. ワックスは次のトヨタ純正品をお使いください。

〈固形タイプ〉



- A1ネオハード シャインコート
- A1ハード タフ カルナバ
- A1ハード カルナバ
- A1ハード トラッド
- A1ソフト タフ ホワイト
- A1ソフト ホワイト
- A1ソフト メタリック & マイカ

〈液体タイプ〉



- A1コートセット
- A1コート ロングライフ
- A1イージー(リキッド) オールラウンド
- A1イージー(リキッド) ホワイト
- A1クリーナーワックス(リキッド) オールラウンド
- A1クリーナーワックス(リキッド) ホワイト

②バンパーの手入れ

たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷が付きますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。



ちょっと一言

エンジンオイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。

〈カラード(車体同色)バンパー付き車〉

車体と同じく洗車したあとトヨタ純正ワックスでワックスをかけをします。

〈カラード(車体同色)バンパー付き車を除く〉

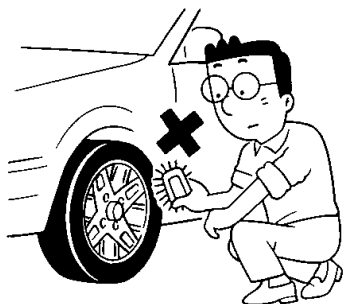
1. 車体と同じく、洗車したあとトヨタ純正バンパーワックスでワックスをかけをします。
2. 塗装用ワックスが付着すると、目地にはいり白くなることがあります。



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

③ アルミホイールの手入れ

1. ホイールを洗うときは、中性洗剤を使用してください。よごれがひどく落ちにくいときは、トヨタ純正アルミホイールクリーナーをお使いください。
2. ワイヤブラシなど硬い物を使用して洗うと、ホイール面に傷がつきます。セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. 最後は十分水洗いをし、車体と同じワックスでワックスがけをしてください。



ちょっと一言

1. 泥の付着、海水、凍結防止剤などにより汚染されると、腐食するおそれがありますので、付着させたままにせず、なるべく早く洗い落としてください。
2. コンパウンド(みがき粉)入りワックスは、よごれがひどく落ちにくいときにだけ限定してご使用ください。
3. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がついたり塗装膜の摩耗を早めることがあります。

④ ホイールキャップの手入れ

セーム皮、スポンジなどで十分水をかけながら洗ってください。たわしや自動洗車機の硬いブラシを使用すると塗装部に傷がつきます。



ちょっと一言

ピッチクリーナーなどが樹脂部分に付着すると、破損の原因となりますので、十分注意してください。

⑤ ウィンドウガラスについて

ワイパーのふきが悪くなった場合は、次のトヨタ純正ガラスクリーナーで清掃してください。



- ガラスクリーナー
コンパウンド
- ガラスクリーナー
リキッド
- ガラスクリーナー
エアゾール

なお、ワイパーゴムが古くなっている場合も同様にふきが悪くなりますので最寄りのトヨタ販売店で交換してください。



注意!

リヤウィンドウガラスの内側を清掃するときは、ガラスクリーナーなどを使用しないでください。熱線が断線し作動しなくなるおそれがあります。清掃は、熱線にそって、水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

⑥ 塗装のとび石傷やかき傷などの補修

これらの傷は腐食の原因となります。見つけたら早めにトヨタ純正タッチアップペイントまたはタッチアップテープで補修してください。



⑦ 内装の手入れ



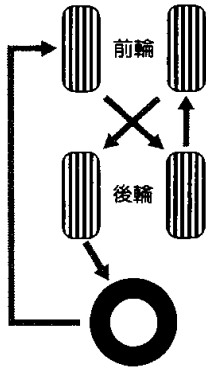
注意!

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因になります。

1. カークリーナーなどでほこりを取り除きます。
2. 水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふきとります。よごれの落ちにくい場合は、トヨタ純正品の取扱説明をよく読んでからお使いください。ただし、シートベルトについては中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用するとベルトが弱くなり、万一のとき正常な働きをしないことがあります。

■タイヤ位置交換

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を伸ばすために10,000kmごとに下図にしたがって位置交換を行うことをおすすめします。



ちよつと言

1. 搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。

ジャッキアップのしかたについては86ページを参照してください。

2. タイヤに付着したよごれを落とす場合は、トヨタ純正タイヤクリーナーで清掃してください。

■エンジンオイルについて

エンジンオイルの量をときどき点検してください。なお、高速走行(80km/h以上の走行)を行う前には、必ず点検してください。(点検方法については「整備手帳」を参照してください。)

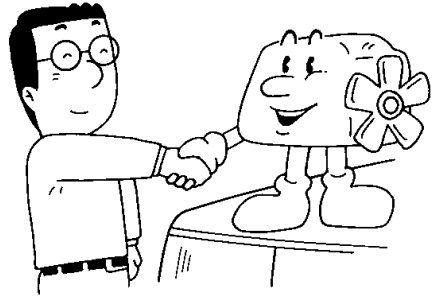


ちよつと言

エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

経済運転のコツ

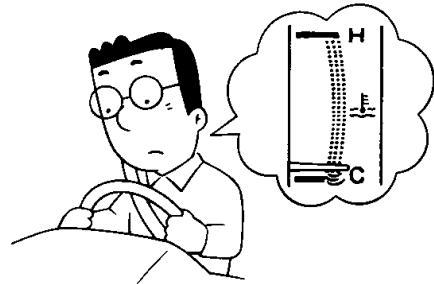
エンジンをいたわる気持ちで、
長持ちの秘訣



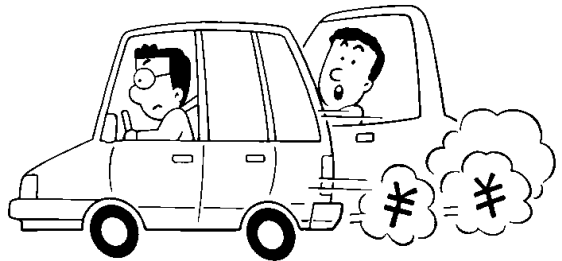
(新車時はとくに)ひかえめな運転をしてください。

暖機運転は、長すぎると不経済

水温計の指針が動き出すまでになればOKです。



不必要な高速運転は燃料のムダ使い

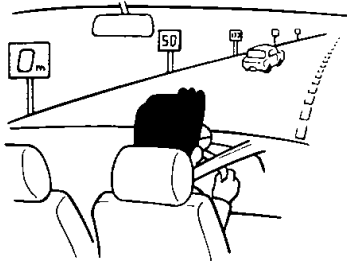


100km/h走行時の燃費は、40km/h走行時の約1.5~1.7倍よけいに多くかかります。

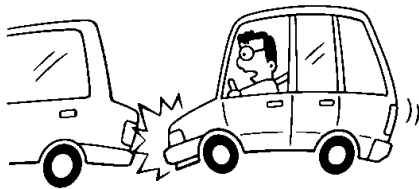
高速道路は80km/h程度で走るのが経済走行といえます。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

車間距離はゆったりとって、安全プラス経済運転



急発進、急ブレーキは危険をとめない不経済



クラッチの適正で確実な操作は、車を長持ちさせる秘訣

1. ギヤをいれるときは、クラッチペダルを十分踏み込んでから行ってください。
中途半端な踏み方ですと、クラッチはもちろんトランスミッションのギヤなどもいためることになります。
2. 走行中は、クラッチペダルに足をのせないようにしてください。
3. 発進時は、ロー（1速）ギヤを使用してください。
セカンド（2速）ギヤ発進など半クラッチの多用はクラッチの摩耗を早めます。

寒冷地での取り扱い

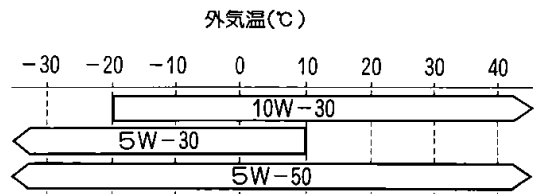
この項目での寒冷地とは、北海道全域および東北、北陸の積雪地帯および、その他の地域を含めた山岳地、スキー場などの局地的な厳寒地区、多雪地区を対象としておりますが、その他の地域においても、冬期の取り扱いの参考としてください。

安全なウインタードライブをするために

1. タイヤチェーンの準備
2. 冬用タイヤの装着
冬用タイヤに取り替えるときは、4輪とも指定サイズの同一銘柄のものに交換します。
3. 冷却水の濃度を点検してください。（寒冷時は、トヨタ純正ロングライフクーラントの濃度を50%にします。）
4. ウォッシャー液の濃度を50%以上にあげます。

使用地域・季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液1に水2	-10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	-20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	-50℃以下

5. エンジンオイルの粘度は、外気温によって下表を参考にして使いわけてください。



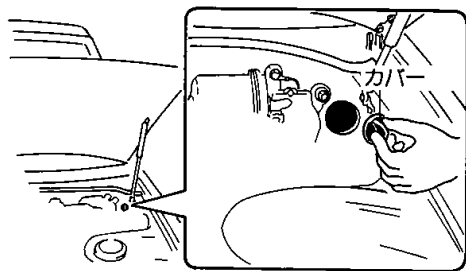
●5W-30は寒冷時しか使用できません。

6. 寒冷地では冬がくる前に燃料タンクの水分を排出することをおすすめします。
7. 凍結防止用ワイパーブレードの装着(降雪地のみ)必ずトヨタ純正品を使用してください。
8. ワイパーの切り替え
フルコンシールド式ワイパーは、フロントガラスに多量の雪が積もった場合ワイパーが上がらなくなりワイパーモーターを損傷するおそれがありますので、次の〈切り替え方法〉を参照してフルコンシールド式からセミコンシールド式にご使用ください。

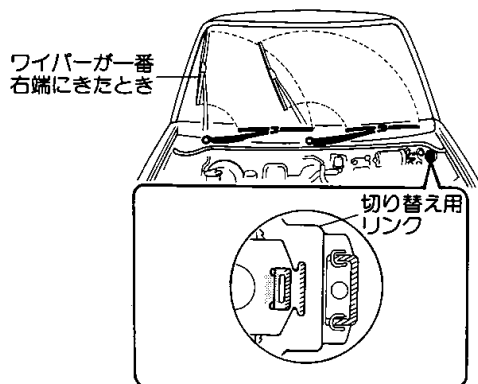
〈切り替え方法〉

切り替えには⊖ドライバーが必要ですので、用意してください。

1. エンジンルーム左側のワイパーモーター横にあるカバーを取りはずします。

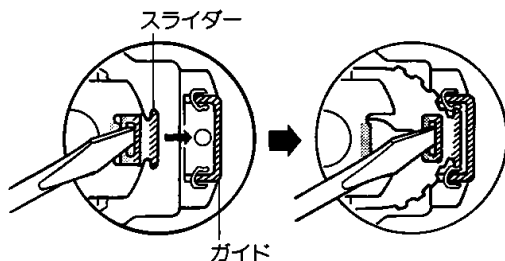


2. エンジンスイッチをONにし、ワイパースイッチをLOの位置にします。
3. 運転席側のワイパーがウィンドウガラスの一番右端にきたとき、すばやくエンジンスイッチをACCの位置にし、1.で取りはずしたカバーの穴からワイパー切り替え用リンク(次図)が見えることを確認します。



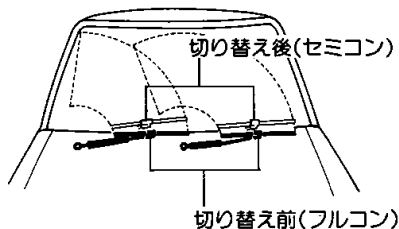
カバーの穴から切り替え用リンクが見えなければ2、3の操作を再度行ってください。

4. ⊖ドライバーを下図の位置に差し込み、スライダを右に動かしてガイドにはめ込みます。



ガイドにはめ込んだときカチッ音がしてロックされたことを確認してください。

5. エンジンスイッチをONにし、ワイパーを4～5回作動させてください。
6. ワイパースイッチをOFFにし、ワイパー停止位置が上がっていることを確認します。



7. ワイパーモーター横のカバーを取りつけます。



切り替え方法がわからないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

注意!

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

走行前の点検(運行前点検)

寒冷時には、次の項目を運行前点検のときに実施してください。

1. 車の下をのぞいて、足回りに付着した氷塊を部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。
2. エンジン始動時にアクセルペダルの作動が円滑かどうか確認してください。
3. フロントウインドウの氷雪を除去する際には、ワイパーゴムがガラスに凍結していないか確認してください。

エンジンの冷えすぎを防ぐには



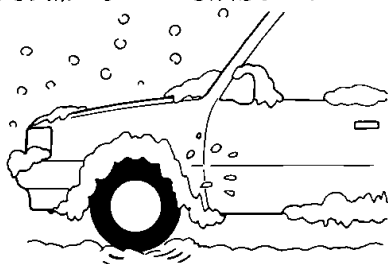
1. 気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけるとエンジンを適温に保つのに効果があります。
2. 駐車するときは、ボンネット側を風下にしてください。

ドアの凍結時の処置

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア回りのゴムがはがれたり、き裂するおそれがありますので、湯をかけて氷を溶かしてください。なお、あとで水分を十分ふき取ってください。

雪道走行時、
フェンダー裏側に付着した雪が氷結し
次第にたい積して、
ハンドルのきれが悪くなる場合があります。

ときどき異常のないことを確認してください。



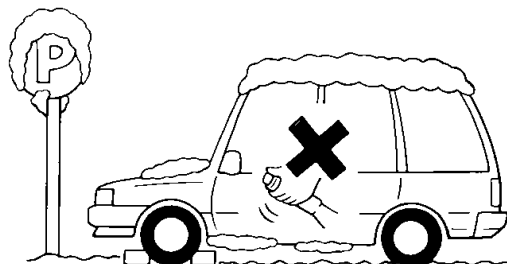
ペダル操作時のすべり防止のため、
靴に付着した雪を
乗車時、よく落としてください。



凍結するおそれのある場合の駐車は…

寒冷時はパーキング(駐車)ブレーキをかけておくとブレーキ装置が凍結するおそれがありますので、パーキング(駐車)ブレーキはかけないでください。

1. チェンジレバーの位置をマニュアルトランスミッション車はロー(1速)またはリバース(後退)、オートマチックトランスミッション車はPにします。
2. 車が絶対に動くことのないように輪止めをしてください。



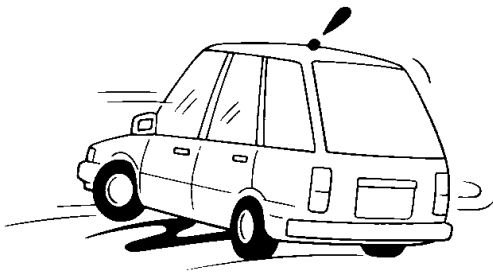
寒冷地では雪道走行時あるいは駐車時にブレーキ装置に着氷し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

走行中は前後の車や道路状況に注意し、ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

また、駐車後走行を開始する場合も、できるだけ早くブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪い場合は低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。

ぬれた路面、冰雪路面、凍結路面ではスリップに注意



ひかえめな速度で走り、冰雪路面、凍結路面では、冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着してください。地域によっては、条例などで使用が義務づけられていますので、冬がくる前に準備しておいてください。

タイヤチェーン

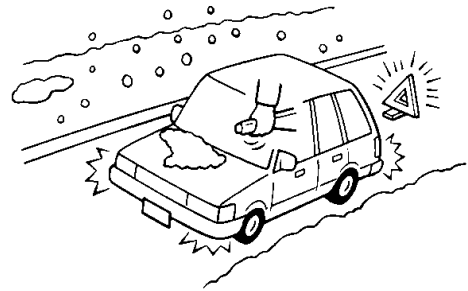


ちょっと一言

1. タイヤチェーンは後2輪に取りつけます。
2. 作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
3. タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったトヨタ純正品を使用してください。

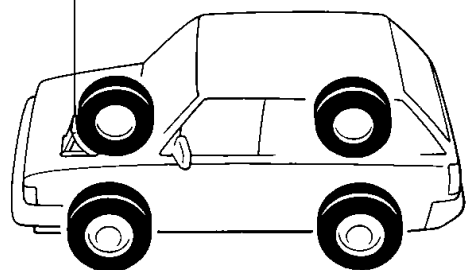
■取り付け方

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板を使用します。
3. パーキング（駐車）ブレーキをしっかりとかけエンジンを止めます。



4. チェンジレバーをマニュアルトランスミッション車は1速、オートマチックトランスミッション車はPの位置にします。
5. 工具やジャッキを取り出します。☞88ページの「パンクしたときは②タイヤ交換」を参照してください。
6. 左側チェーン取り付け時には右側前輪、右側チェーン取り付け時には左側前輪の前側に、輪止め（搭載工具に含まれています）をします。

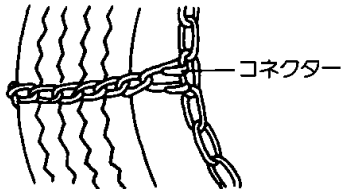
輪止め



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

7. 後輪をジャッキアップします。
 □86ページの「ジャッキのかけ方」を参照してください。

8. コネクターの折り曲げが外になるようにチェーンをかぶせます。



9. チェーンの両端をいっぱい引っ張って内側のフックを、次に外側を連結します。

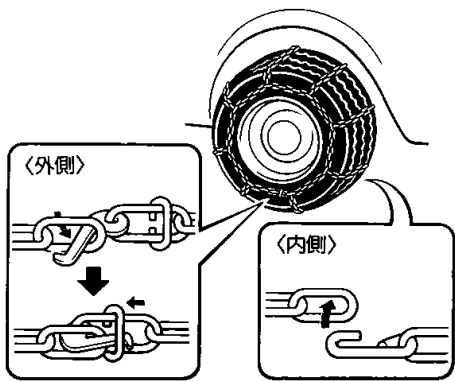
内側のフックはチェーンのいちばん端と連結してください。

13. 2～3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどがないことを確認してください。

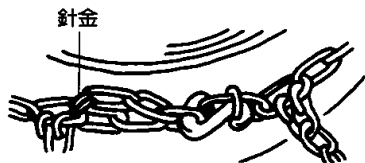
注意！
 タイヤチェーンを装着しているときは、30km/h以上で走行しないでください。タイヤチェーンにかかる負荷が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。

ちよつと言
 1. ホイールキャップ付き車の場合、ホイールキャップに傷がつくおそれがありますので、タイヤチェーンを装着する場合にはホイールキャップをはずしてください。
 2. アルミホイール装着車はホイールに傷をつけるおそれがあります。

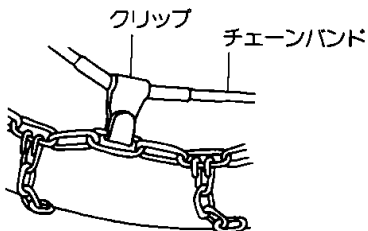
車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン



10. 余ったチェーンは車体に当たるのを防止するため下図のように針金で結びます。



11. チェーンバンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンにかけます。



12. ジャッキをおろし、輪止めをはずします。

■取りはずし方

1. チェーンバンドをはずし、針金を取り、フックは外側から先にはずします。
2. 車を少し動かして、チェーンを取り出します。